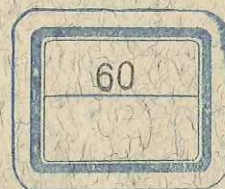


敬学会賞第十九回入選作品

NOTE BOOK
RECORDING FOR VALUABLE DAYS OF ALL

新聞と記者



六年二組

渥美道子

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP
MARUKYO'S <YÔ> NOTE



TOKYO

目 次

(ページ数)

1.	どうしてこの研究を始めたか	2
2.	お世話になった人、本など	3
3.	どのようにして研究を進めていくか	3
4.	記者の持 ^{もち} 場 ^ば (受けもち)	4
1)	おもな記者の持場	4
2)	外国に行つて取材する記者	6
3)	その他のいろいろな記者	7
5.	新聞のできるまで	9
6.	まとめ	20
7.	感そう	21

1. どうしてこの研究を始めたか

私の父は新聞社に つとめています。父に用事があるときなどはよく会社に行ったりしますが、そのたびに「こんな大きな会社のどこで」記事を書いたり、印刷したりするのかなあ。と ぶしぎに思ったり また 毎朝、新聞が家にとどくたびに「この新聞が出来て家にとどくまで」どのようなすじ道を通して来るんだろう。とよく考えこんだりしました。そしてテレビでも毎週「事件記者」という番組を放送していますが、それを見ても、記者の生活 仕事などでわからないことがたくさんあります。そこで 夏 休み中の敬学会の研究を利用して、新聞社の組織 新聞記者などについて、調べ、研究を進めて行きたいと思います。

2. お世話になった人 本など

- 私の父 (新聞社に つとめています。よく父から新聞社の組織 記者の仕事などについて教えてもらった)
- 相馬さん (現在 山形新聞社で「けいさつ」をたん当している キャップ)
- 本は 使いません。

3. どのようにして研究を進めていくか

実際に新聞社に行って見学してきて、わからないところは父などに聞いて 研究を進めていきたいと思います。本は使わないようにして進めて行きたいと思います。

4 記者の持場^{もち}（うけもち）

1) おもな記者の持場

記者にもいろいろなうけもちがあります。

山形新聞で言うと、編集局の中に報道部というのがあり、現在32名の記者がいるそうですが、その中で一番多いのが市役所をうけもっている記者だ"そうです。この記者の仕事は、山形市内のできごと、たとえば"水道工事や道路工事のこと公園のことなど"を記事にする仕事です。

その他、県方には県議会のようすや県内の政治、経済など"をうけもっている記者がいます。この記者たちは、ひじょうに目立たない仕事をやっているのだ"そうです。

毎週テレビで放送している「事件記者など」に出ているような記者は、けいさつ本部の記者クラブに所属しています。はでなように見え

る事件記者も 毎日いつ起こるか分からない事件のために 夜中も 神経を、使っています。一番急がしいのが 交通事故だ"そうです。事故が起きると すぐ 事故現場に行つて取材してきます。小さい事故の場合は、けいさつ本部に報告されてくるのをうつして記事にします。

(2) 外国に行つて取材する記者

新聞を見るとよく「ロンドン 二日 青木特派員発」というようなことが書かれています。これは、外国に行つて原稿を書いている記者、つまり、外国特派員のことですが、この仕事をやるには、英語などがとくにいなくてはならないといけないうた「そうです。

この特派員は、イギリスやアメリカにいて日本に、関係のある記事を書いています。たとえば、日本の外務大臣が、ニューヨークの国連本部で演説したり、ジョンソン大統領と会談したりしたことを、その内容をくわしく説明して送ってくるわけです。また、ベトナムにも特派員として出かけ、日本人の目から見たベトナムのようすを記事にしたりします。

(3) その他のいろいろな記者

これまで出た記者のほかに、経済部記者がいます。経済部記者は、農作物の出来ぐあい、米などの動き、国の予算、県の予算など、私達の生活でたいせつな食衣住のことを記事にして書いています。

政治部記者は、総選挙の時、立候補者の予想、当選、落選の国会の演説、おとむき首相の記者会見など、山形では県会のように、知事との会見記事など、政治についてのいろいろなことを記事にします。

運動部記者は、野球をはじめ、水泳、陸上のあらゆるスポーツの記録などを記事にします。プロ野球一つにしても、かんくの話、予想、選手の話、個人テーブル、インニングスコアな

8

ど たくさん 記事にしなければなりません。

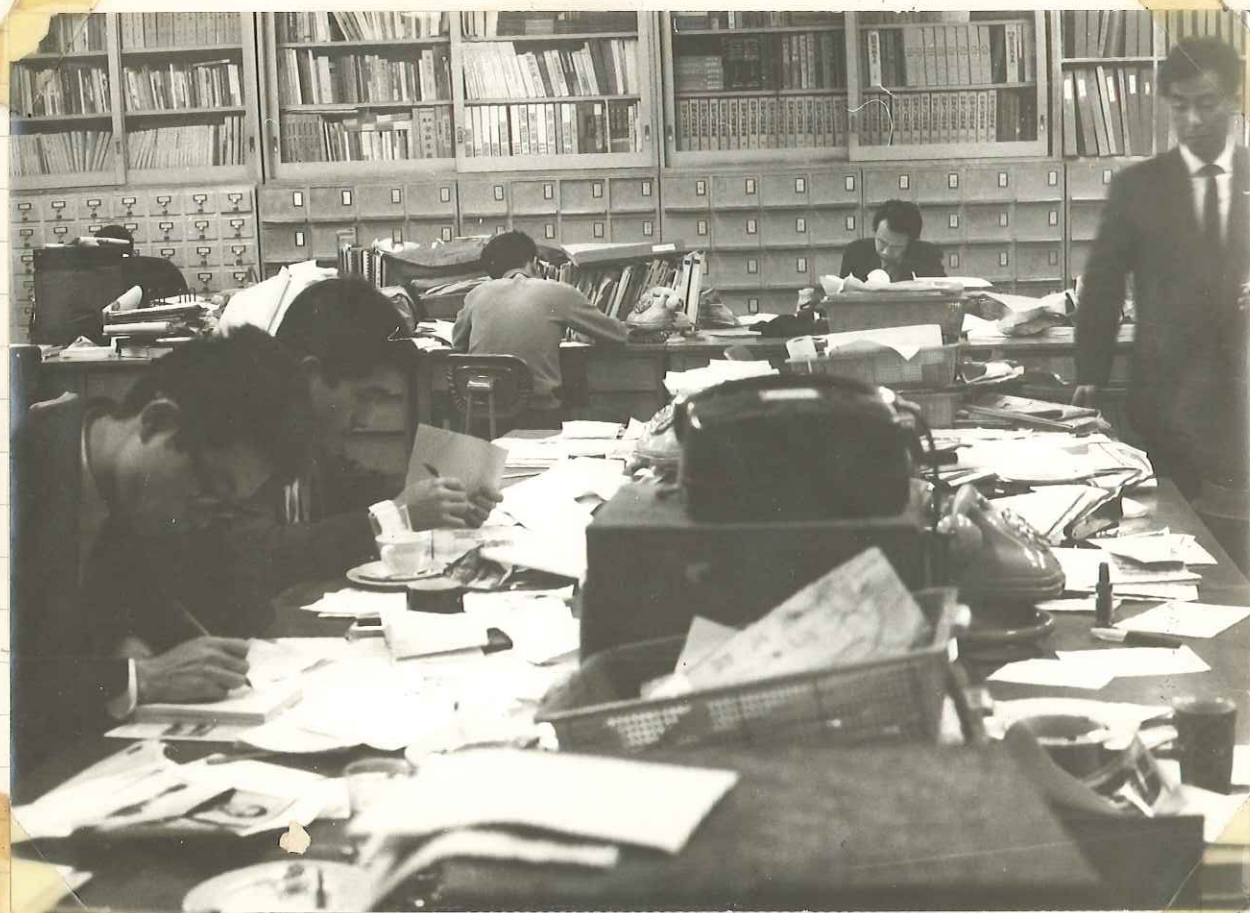
写真部記者は、事故があった時、すぐ現場にかけつけ、写真をとったり、市内のいろいろな行事、お祭り、夏の山や海のにぎわい、冬の蔵王スキー場などを写します。

整理部記者はこれらの政治、経済、社会、運動などの各部から集ったニュースや写真の中から、新聞にのせるものを選んだり、記事のいろいろな部分をばぶき、かなづかい、字のあやまりなどをなおしたり、記事を新聞の形に組み印刷をするばかりにします。

5 新聞の（できるまで）

9

5. 新聞の（できるまで）
(写真は山新内をとったもの)



① 編集局のようす。原稿を書いている人、書いた原稿に手を入れている人などいるが、いる。



② 県内の各支局 通信部からは 原稿が
電話で送られてくる。そしてそれを速記で
書きとる。



受信機

③ 全国県内各地から送られてくる写真を受ける写真



④ 原稿に見出しをつけている 整理
部員



⑤ 大^{すり}刷を見ている 整理部員



⑥ 原稿をデュープにうつしている。サニコー機という。



⑦ デュープで送られてきた原稿を
する機械 フリニターという
印字(字に打つ)

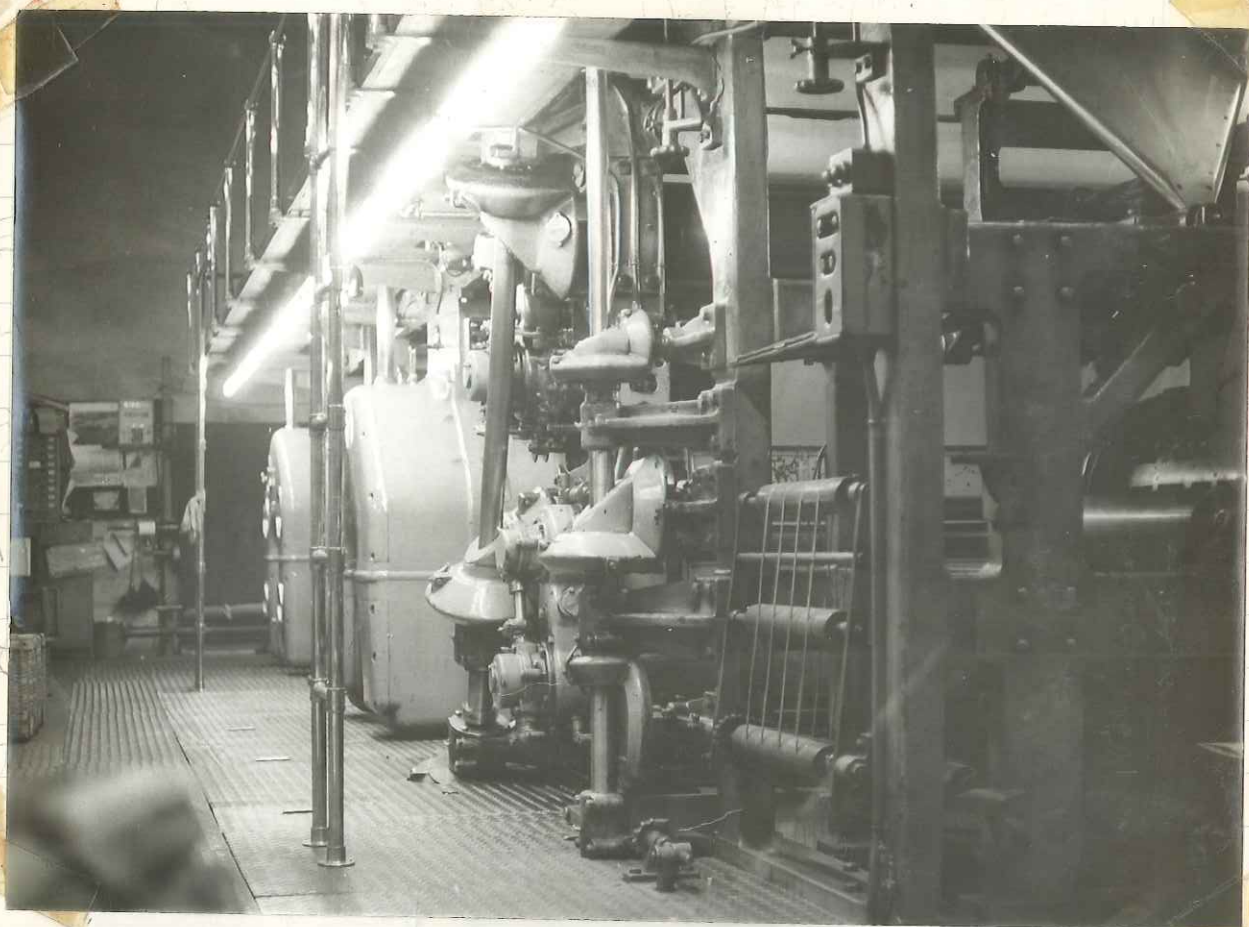


⑧ テープレ
する機械

送られてきた原稿を
活字に



⑨ 活字に、くまれたた小刷を、原稿を見ながら、
^けちがいを ^{こう}なおしている 校閲部



⑩ 一時間 十萬部を印刷する 輪転機

これは、新聞の作り方の順序についてまとめたものです。

次に山形新聞の歴史というものが
山形新聞の作る順序を書いた後に、ついていたの
について読んで調べてみました。これを見ると
山形新聞が、山形県という県が出来たとき
に生まれたというたいへん古い歴史ある新聞
だということがわかった。この新聞を始めにつ
くった人は、きっとえらい人だなあと思いました。

山形新聞の歴史

山形新聞がはじめて発行されたのは、1876年（明治9年）、『山形県』ができたのと同じ年で、いまから87年前のことです。つまり、山形新聞は山形県とともに生まれ、山形県とともに育ってきた全国でもまれに古い歴史をもった新聞です。はじめは、日本の日刊新聞のすべてがそうであったように、山形新聞も、政党（自由党）の機関紙として成長し、民主主義のまだ発達しなかった明治時代には、いくつの浮き沈みがあったのですが、やがて、大正時代にはいり、故服部敬吉（はっとり・けいきち）翁が、社長になるや、経営もしっかりとし、近代的な新聞の形をしだいにととのえてきました。さらに、昭和時代にはいって、敬吉翁の子息服部敬雄（はっとり・よしお）氏が、東京朝日新聞から山形新聞にむかえられるや、むかしの政党機関紙のような色合いを完全にながすて、政治的なかたよりのまったくない県民のための県民の新聞として、近代的な新聞の形を一気に打ち立てたのです。その後、第2次世界大戦中、政府の意向によって、県下の各新聞は、山形新聞にぜんぶ統合され、現在は、完全な『一県一紙』、山形県唯一の郷土紙として全県民に親しまれ、愛読されています。

山形新聞のできるまで



本社記者
カメラマン
取材



調査



編集局（整理）



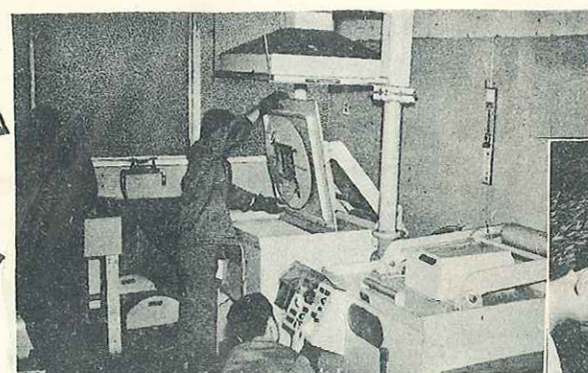
写真電送

支局社

通共信

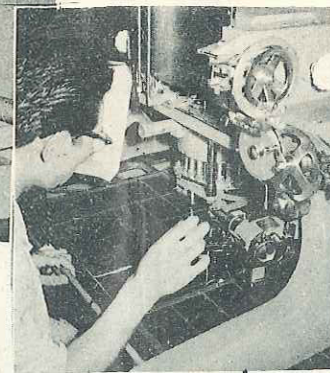
ニュース源

広告部



●高速腐し機（ヨシロン）
写真版、さし絵、マンガ、カット、広告が自動的に短時間で腐し版を作ります。

植手拾字



●写真植字機—文字、記号を大小自在にフィルム、印刷紙に撮影するタイプライターの写真機の動作が同期に行うことができます。



手動モノタイプ

●全自動モノタイプ
—さん孔テープを活字にかえる。早さは手拾いの十倍で毎分百三十字。

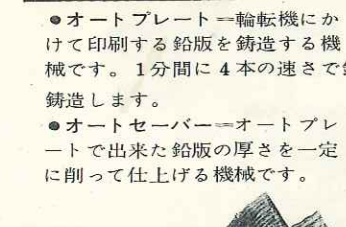
校正



●大組—活字（文章）写真版凸版さしえなどを新聞一頁大に組みあげます。広告らんもこの時組み込みます。



●ローリング二台—大組されたものから紙型をとる機械です。



●オートプレート—輪転機にかけて印刷する鉛版を鋳造する機械です。1分間に4本の速さで鋳造します。
●オートセーバー—オートプレートで出来た鉛版の厚さを一定に削って仕上げる機械です。

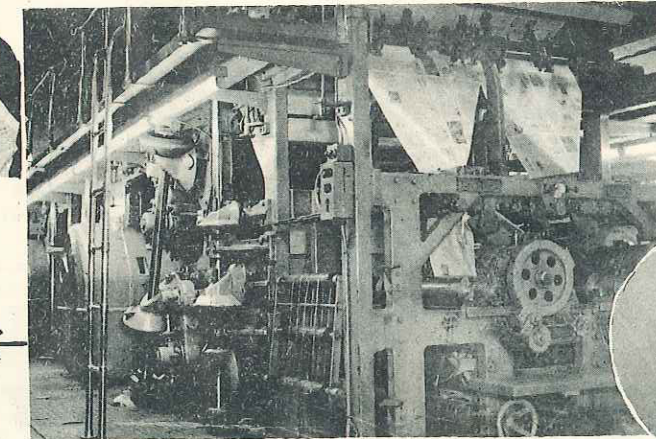
家庭へ

●高速度輪転機—3台あって連結運転して24頁新聞を同時に印刷することも出来ます。1台では1時間15万部を印刷する能力があり各色刷装置がついています。

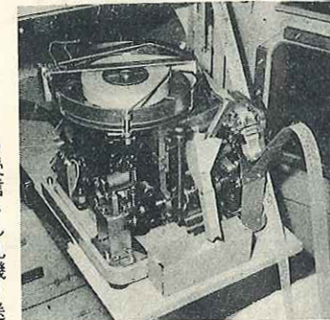
配達



発送



●巻取紙
—本から四五千枚印刷出来ます。一本の巻取紙の重量は約六百kg、巻いてある紙の長さは約六、八五〇米あります。

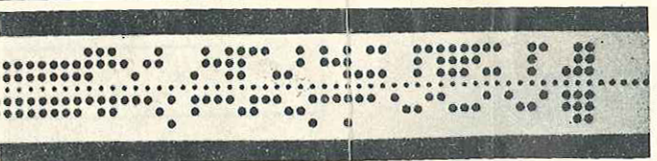


●受信さん孔機—送信機にかけられたテープの穴記号をそのまま再現させる。

●プリンター—キーボードや受信さん孔機で作られたテープを文字にほん訳する。

●キーボード—二千五百字が収容され、鍵盤をたたくと穴記号がいたテープが出てくる。

さん孔テープ



“県民の眼、県民の耳、山形新聞、山形放送”とさん孔したもの

1 記者にもいろいろな持場がある。

2 記者にはおもに

- ・市役所を受けもつ記者。
- ・県庁に いる 記者
- ・事故を受けもつ記者(事件記者)
- ・外国に行って取材する記者(外国特派員)
- ・経済部記者
- ・政治部記者
- ・運動部記者
- ・専真部記者
- ・整理部記者 などの記者がいる。

私は、この研究を、これまで研究したうちで一番よく出きた研究だ"とは思っていませんが、これまで研究したうちで一番ためになった研究だ"と思いました。それは新聞社に行つて見学してきて記者にもいろいろな持場があるということもわかりましたし、記者が社会に大きな役わりを果たしていること、記者の急がしい仕事のこともわかりかけてきました。そして、記者の人たちはほんとうに大変なんだなあ、この研究をして おわったときに つくつく、そう感じました。私はこの研究をしてほんとうによかったと思っています。けれどもこれではまだ書くことはたりないみたいですけれど、その他のいろいろ

22

ろなことは、中学に行ってまたやりなお
してみたいと思っています。